

太田東西かわら版

2020.11

Go To Solo Travel (一人旅)



《Go To トラベル》を利用して、1週間一人旅に出掛けました。
場所は近畿地方。奈良県新薬師寺→三重県伊勢神宮→和歌山県熊野三山
(速玉大社～那智大社～本宮大社) →和歌山県高野山(奥之院～金剛峯寺)

レンタカーでの総移動距離700km。私の総歩行距離40km。
時間的に身体的に過酷なスケジュールでしたが、今振り返って思うことは
「やり遂げたい！行ってみたい！」といった自発的な行動は、体は疲れても
心は元気だった。だから楽しめた、達成できたということです。
(写真は旅の最後に訪れた、女人高野の慈尊院)。

人生初の「1週間一人旅」で学べたことは3つ。
まず1つ目。

「旅行のスタイル・価値観も変化している」ということ。
大型観光バスに乗っての団体ツアー。昭和時代の慰安旅行に代表されるような
食べて呑んで歌っての大宴会など。もはや過去の出来事だと実感しました。

宿泊したすべての宿でチェックイン時に検温。とある宿で尋ねてみました。
「もし私が37.5℃以上あったらどうなるのですか？」
すると・・・

「保健所に通報することになっていまして、宿泊はお断りしています」
「同伴されているご家族ご友人にも、ご遠慮いただくこととなります」

なんという世知辛い世の中になったのでしょうか！
体温が37℃を超えていたら、コロナ感染を疑われ、怪しまれ、通報されて
門前払いされるのです。食事どころか、寝泊まりする場所も失うとは・・・。

行楽の秋のこのシーズン、政府のGoToトラベル利用は盛況のようですが
団体ツアー客はほとんど目にしませんでした。外国人観光客も皆無。

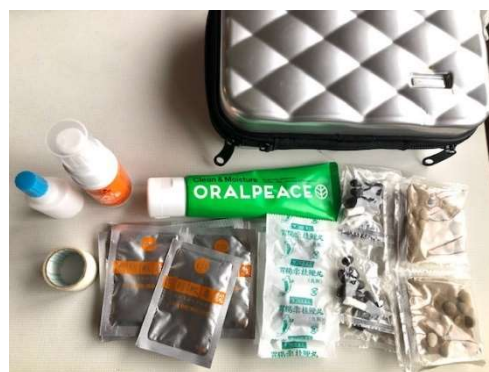
団体行動＝うつるリスク、うつされるリスク。
旅先で風邪を引いたら、ツアー同行の人たちに多大な迷惑をかけてしまう。
＜GoToトラベル＞が一転、「GoToトラブル」に！（「口」|||）

宿側も国の指示に従っての苦渋の対応だと理解できますが、くつろぐための
旅先で検温・マスク・ソーシャルディスタンス順守。

旅費割引はうれしいことですが、発熱すれば宿にも飛行機にも拒否される。
そんなリスクを負ってまで旅をしたくなるか？

“緊張”を強いられるGoToトラベル。
しかし、私は大いに楽しめました！😊

なぜなら、健康には自信があるから。
人並み以上の感染予防の知識・習慣が
確立されているからです。旅行中も
漢方、鼻うがい、オーラルケアは忘れません。



2つ目。

「そこに愛はあるか？」が試されているということ。

コロナ対策を通じての接客は実に様々でした。

もはや笑うしかないというくらい感染対策をしているガチガチの宿もあれば感染対策をしながらも、「もてなしの心」にあふれる宿もあった。

過剰とも思えるその感染対策は「誰のために」しているのか？

決まり・規則を厳守する。それは否定されるものではありませんが、それが行き過ぎると、相手（お客）に違和感を感じさせます。

「それって結局、お客のためというより、自分たちのためだよな？」と。

感染者を出して風評被害を受けたら倒産確実。だから徹底的に感染予防に努める。宿泊客・従業員一丸となって、コロナに立ち向かう！みたいな(^-^;

そうした宿には共通して「笑顔がなかった」。人も建物も「暗かった」。コロナ感染者を出しての風評被害倒産リスクよりも、お客を明るく笑顔でもてなせない対応での倒産リスク。そのほうがはるかに大きいと実感。

一方、最終日にお世話になった宿。
そこにはしっかり、“愛”があった！

笑顔、もてなしの心、人情があった。
コロナ渦で将来の不安はあっても
明るく前向きに家族で頑張っていた。

その生きざまに、元気をもらった！



宿のオーナーさんに、先の質問をしました。すると・・・

「検温で微熱があった場合は、決まりに従って保健所に連絡はしますが
しっかり休める場所は責任を持って確保します。それも大切なもてなしです」

今回の旅。きっかけは、これからの太田東西薬局の在り方を見つめ直すため。
そこに確信を得たい、その答えが欲しくて旅に出ました。
そして、見つかりました。

「そこに愛はあるか？」。 愛を持っていれば、それでいいんだと。

最後、3つ目。

「自然回帰の大切さ」を改めて実感したということ。



時代は情報化社会。テレビ、ネット、新聞などからコロナニュースを筆頭に洪水のごとく情報が入って来る。知らなくてもいいことを知って、心配しても仕方がないことを案じて、不安になって体調を崩している多くの人たち。

健康を回復する情報を収集して、病院に行って、検査をして、薬をもらって健康になろうとするが、一向に体調はすぐれない・・・。
なぜか？

《原点回帰》を忘れていたからだと思う。「自分の原点に帰る」ということは「自分に向き合う」こと。森林や清流など自然に身を置くと、自分の心の声が聞こえてくる。「もうやめよう」と手放すことができたり、「まあ～いいや」と許せるようになったりする。思考と感情の混乱が浄化される。

その原点回帰に必要なものは、情報でもお金でもない《自然回帰》だ。

「よく来たね～ 疲れたんだね～ 元気になって帰ってね～」
自然にはそんな無償の“愛”がある。 たくさんの“氣”がある。
だから元気になれる。